

品目	2014年度 (実績)		2015年度 (見込み)				2016年度 (見通し)		コメント			
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)	伸び率%	下半期 (見込み)	伸び率%	10億円	伸び率%				
総額	83,815	▲0.9%	39,071	▲5.5%	38,784	▲8.7%	77,855	▲7.1%	79,150	+1.7%	2年連続減少。	3年ぶり増加に転じる。
IM 01 食料品	6,857	+5.3%	3,566	+4.1%	3,364	▲2.0%	6,930	+1.1%	6,892	▲0.6%	魚介類及び同調製品:数量の減少が見られる品目があったものの、円安や世界的な需要の高まりで、えび、まぐろ等の主要品目の価格が上昇し、輸入金額が増加。 肉類及び同調製品:牛肉は日豪EPAによって輸入金額が増加したものの、豚肉で国内在庫の調整の動きがあり、全体では輸入金額は横ばい。 小麦及びメスリン:世界的に小麦の在庫が過多であるため価格が下落し、輸入金額が減少。	魚介類及び同調製品:主要品目において需要の高まりが続き、価格も上昇。輸入金額は増加。 肉類及び同調製品:牛肉、豚肉、鶏肉の価格下落により輸入金額が減少。 小麦及びメスリン:引き続き世界的な小麦の在庫過多が解消されず、価格の下落が続くことから、輸入金額が減少。
魚介類	1,542	+3.8%	792	+4.9%	795	+1.1%	1,588	+3.0%	1,611	+1.5%	えび:主要生産国において発生していた病害(EMS)は収まったものの、病害対策で数量管理を行っており、供給量回復は限定的。需要面では中国が輸入数量を増やしており、価格は高止まり。輸入数量の若干の回復と高止まり状態の価格の影響で、輸入金額は増加。 さけ・ます:価格が一部の国での需要減もあり低下し、輸入金額も減少。 まぐろ:円安で海外産の出荷先が他国へシフトし数量は減少するものの、価格が上昇し、輸入金額は増加。	えび:病害対策の数量管理の影響で、輸入数量は小幅な増加にとどまる。需要の高さは続くもみられ、価格は高止まりし、輸入金額は増加。 さけ・ます:豊漁予測はないが国内需要は安定しており、数量は増加。世界的な需要も続くもみられ価格は上昇し、輸入金額は増加。 まぐろ:引き続き円安による海外産の出荷先シフトで輸入数量はやや減少。価格は引き続き上昇し、輸入金額はやや増加。
肉類	1,373	+15.8%	715	+2.6%	657	▲2.9%	1,372	▲0.1%	1,297	▲5.4%	豚肉:国内需要は増加も欧州産冷凍肉の在庫があり、数量が減少。価格が上昇した牛肉からの需要のシフトがひと段落したため価格が下落し、輸入金額が減少。 牛肉:日豪EPAによる豪州産の輸入と米国産の供給量の回復で数量が増加。価格は豪州産の供給量減がひと段落したが、単価の高い米国産の供給量の回復もありわずかに上昇となる。そのため輸入金額が増加。 鶏肉:上半期は牛肉・豚肉の価格上昇に伴う需要シフトで数量が増加。下半期は需要シフトが収束し価格が下落。輸入金額はわずかに減少。	豚肉:引き続き在庫調整により数量が減少。価格は牛肉からの需要のシフトが終了して下がり、輸入金額が減少。 牛肉:日豪EPAの影響で数量が増加。価格は豪州産・米国産の供給量とともに回復に向かうことから下落。価格の下落の影響で、輸入金額としては減少。 鶏肉:牛肉・豚肉の価格上昇に伴う需要シフトが終了し数量が減少。需要減により価格が低下し、輸入金額は減少。
IM 02 原料品	5,540	+0.2%	2,520	▲11.0%	2,085	▲23.0%	4,605	▲16.9%	4,292	▲6.8%	鉄鉱石価格や銅鉱価格の下落が輸入金額を下押し。	引き続き鉄鉱石価格や銅鉱価格の低迷が重し。
鉄鉱石	1,583	▲10.8%	534	▲37.3%	459	▲37.2%	994	▲37.2%	865	▲13.0%	2015年度下半期の粗鋼生産量は、上半期実績と同水準が見込まれるため、鉄鉱石消費量も上半期と同水準。 鉄鉱石価格の下落を背景に、輸入金額は減少。	輸入数量につき大きな改善が期待できる環境ではないことから、2015年度見込みと同水準。 鉄鉱石価格の低迷が継続することから、輸入金額の減少は続く。
非鉄金属鉱	1,567	+10.9%	791	+0.5%	638	▲18.3%	1,429	▲8.8%	1,394	▲2.5%	2015年度の製錬所炉修による銅鉱需要減少の影響が2014年度と同程度であることから、2015年度通年の銅鉱輸入数量は2014年度と同水準。 銅鉱価格の下落を背景に、円安にもかかわらず輸入金額は減少。	2016年度の製錬所炉修が2015年度比で減少することから2016年度の精鉱輸入量は増加。 銅鉱価格の下落傾向が継続することから、輸入金額の減少は続く。
IM 03 鉱物性燃料	25,119	▲11.6%	8,901	▲31.7%	8,770	▲27.5%	17,671	▲29.7%	17,996	+1.8%	原油価格の下落により、鉱物性燃料は全体的に価格低下し、輸入金額は大幅に減少。	国内燃料需要の趨勢(すせい)的な減少、原子力発電の再稼働等、また、世界的な鉄鋼供給緩和と継続に伴う製鉄量の減少に伴う原料炭輸入減少等、鉱物性燃料輸入量は全体的に減少。原油価格の底打ち、小幅の円安進行もあり、輸入単価はおおむね上昇し、輸入額は2015年度比小幅増加となる見通し。
原油及び粗油	11,860	▲20.0%	4,337	▲34.0%	4,235	▲20.0%	8,571	▲27.7%	8,692	+1.4%	消費税増税後の景気低迷により需要が落ち込んだ2014年度に比べ輸入量は増加。ただし、輸入単価は2014年度に比べ大幅に低く、輸入金額は大幅に減少。	国内原油需要の趨勢的な減少、石油火力発電量の減少等により、輸入数量は小幅に減少。輸入単価は小幅上昇するため、輸入金額は微増。
石油製品	2,417	▲10.9%	937	▲26.4%	924	▲19.2%	1,862	▲23.0%	2,028	+8.9%	揮発油の輸入量は、消費税増税後に需要が低迷した2014年度に比べ増加。一方、石油火力発電の減少により、重油の輸入量は減少。原油価格下落の影響により、多くの石油製品の輸入単価が下落し、輸入金額は大幅に減少。	2016年度末を対応期限とするエネルギー供給構造高度化法(第二次高度化法)に向けた合理化への対応等により、国内精製能力が減少に向かうと見込まれるが、国内燃料油需要の趨勢的な減少もあり、石油製品輸入数量は全体として微減。原油価格の底打ちにより、輸入単価は小幅上昇し、輸入金額は2015年度比約1割の増加。
LNG	7,777	+5.9%	2,328	▲36.6%	2,270	▲44.7%	4,598	▲40.9%	4,860	+5.7%	2015年度は夏場の平均気温が低く、また、暖冬傾向もあり発電量が全体として減少する中、水力発電量が増え、LNG火力発電量は大きく減少し、LNGの輸入量も減少。原油価格の下落に伴うLNG輸入単価の低下もあり、輸入金額は大幅に減少。	原子力発電所の再稼働や太陽光発電の普及等によりLNG火力発電量が小幅に減少し、LNG輸入数量も微減。原油価格の底打ちにより、輸入単価は小幅上昇し、輸入金額は増加。
LPG	940	▲15.9%	280	▲42.1%	410	▲10.4%	690	▲26.7%	693	+0.4%	都市ガスの増熱用途での需要増加により、輸入量は小幅に増加。原油価格の下落に伴い、輸入単価は低下し、輸入金額は大幅に減少。	家庭用・自動車用・化学原料用との需要は減少傾向も、工業向けの重油からの燃料転換や、都市ガスの増熱用途の増加等により、輸入量・輸入金額ともに2015年度から横ばい。
石炭	2,038	▲13.0%	987	▲0.3%	899	▲14.2%	1,886	▲7.5%	1,658	▲12.1%	価格は、中国の需要減速と豪州での高水準の産出による供給過多を背景に、一般炭、原料炭ともに下半期を中心に下落継続。数量は、国内の粗鋼生産減少に伴い原料炭は微減となるが、一般炭は、価格下落に伴う電力各社の輸入量増加によって2014年度比プラスの伸び。	価格は、世界的な供給過多が容易に解消できず、むしろ中国国内での石炭使用規制強化の動きも下押し要因となり始める中で、原料炭、一般炭ともに一段と下落。数量は、すでに高水準にある一般炭は一部の原子力発電所の再稼働などあっても増勢鈍化、また原料炭は、粗鋼生産低迷が続く中でマイナス幅が拡大する結果、石炭全体では減少に転じる。
IM 04 化学製品	6,981	+5.6%	3,913	+13.1%	3,398	▲3.5%	7,311	+4.7%	7,311	+0.0%	医薬品は上半期に一部品目が急増したが、下半期は沈静化して2014年度下半期並みの水準。石油化学製品は原油価格下落の影響が徐々に浸透して価格が下落すること、一方で現状の為替水準では競争力に欠け数量が増えにくいことから減少。	2015年度並み。医薬品は医療費抑制策の影響があり増えにくい。2017年4月の消費税率引き上げ前に一部プラスチック製品(フィルム、シート、袋等)等で数量増加を見込む。
IM 05 原料別製品	7,087	+7.8%	3,569	+2.5%	3,441	▲4.5%	7,010	▲1.1%	7,473	+6.6%	市況低迷に加え需要鈍化により輸入金額が減少。	市況および需要が2015年度比で持ち直し。
鉄鋼	955	+7.6%	423	▲13.8%	431	▲7.2%	854	▲10.6%	889	+4.1%	海外からの輸入鋼材の数量は、急増しない状況が続く。	輸入鋼材の増加は引き続き抑制され、2015年度比横ばい。
非鉄金属	1,754	+10.3%	864	+1.9%	775	▲14.4%	1,640	▲6.5%	1,857	+13.3%	アルミニウム:国内の在庫が大幅に増加したことから、下半期の輸入量は落ち込むのに加えて、アルミ地金の市況低迷から輸入金額は減少。 白金族:輸入量は増加傾向にあるが、下半期に単価が下落するため、輸入金額は減少。	アルミニウム:国内の在庫が減少に向かうことでアルミ地金の市況が回復し、輸入金額は2015年度比増加。 白金族:2016年度の輸入数量は2015年度並み。
織物用糸・繊維製品	948	+6.7%	491	+6.5%	493	+1.1%	984	+3.7%	1,002	+1.8%	円安に伴う単価上昇が続くものの、国内景気の停滞および一部品目の国内調達シフトにより数量が落ち込むため、金額の伸びは鈍化。	国内景気の持ち直しを主因に数量減少には歯止め。しかし、円安ベースの減速により単価が伸び悩むため、金額の伸びはさらに鈍化。
非金属鉱物製品	743	+3.4%	391	+6.5%	391	+3.9%	782	+5.2%	792	+1.4%	住宅着工件数が2014年4月の消費増税の反動から穏やかに回復するのに伴い、ガラスの輸入量は増加。金額は、円安による価格押し上げ効果により増加。	2015年度の傾向が継続。
IM 06 一般機械	6,784	+6.0%	3,538	+8.6%	3,670	+4.1%	7,208	+6.2%	7,380	+2.4%	2014年度は消費税増税、パソコンOSのサポート終了に伴う買い替え需要の反動減などがあったがその影響を脱している。他方2014年度比で円安の影響もあり金額は増加。	2016年度は為替レートの影響がなくなり、輸入金額は微増。
電算機類(含周辺機器)	2,026	▲2.0%	965	+1.6%	1,120	+4.1%	2,085	+2.9%	2,140	+2.7%	昨春のパソコンOSのサポート終了に伴う買い替え需要の反動減が薄らぐことやマイナンバー制度関連の投資増等から、数量はマイナス幅が縮小。加えて、円安や高機能化により価格上昇が続くことから輸入金額は増加。	マイナンバー制度関連投資が続くことなどから数量は下げ止まり。ただし、単価の騰勢は鈍化するため、金額の伸びは2015年度並みに。
IM 07 電気機器	11,606	+5.8%	5,884	+11.1%	6,700	+6.2%	12,584	+8.4%	12,910	+2.6%	通信機、半導体等電子部品の輸入は堅調。為替要因もあって2014年度比8.4%の増加を見込む。	エレクトロニクス製品の需要が一巡。地上局などネットワーク関連機器の需要があるが、携帯電話の5G対応端末は2018年以降、地デジ導入時の機器リプレイスは2017年以降と予測されており、盛り上がり欠く中で若干の増加。
半導体等電子部品	2,910	+8.4%	1,474	+6.4%	1,598	+4.8%	3,072	+5.6%	3,109	+1.2%	太陽光発電への補助金の政策措置がなくなり、光電池用モジュールの輸入が減少するものの、ICは台湾からの輸入が好調を維持し、全体を押し上げ、総じてみると増加。	エレクトロニクス製品への需要が一巡すること等により、ICへの需要が一服するため、輸入金額はほぼ横ばいで推移。
通信機	2,861	+3.3%	1,418	+23.3%	1,711	▲0.1%	3,129	+9.3%	3,220	+2.9%	電話機及び端末機器:Apple iPhone 6s発売および激しい顧客獲得競争が繰り返された13年秋冬にスマートフォンを契約したユーザーの「2年縛り」終了に伴う買い替え需要により増加。	電話機及び端末機器:5G対応端末の市場投入は18年以降とみられるものの、日本メーカーの従来型携帯電話端末事業撤退を受けた国産携帯電話端末ユーザーの海外メーカースマートフォン乗り換え需要などで増加。 ネットワーク関連機器:増加。なお、2017年以降、2010年の地上デジタル放送開始に向け導入された放送設備のリプレイス需要が発生。
IM 08 輸送用機器	3,029	+0.3%	1,542	+12.9%	1,541	▲7.3%	3,083	+1.8%	3,066	▲0.6%	上半期は自動車輸入が好調。通年では1.8%増。	自動車輸入の伸び率鈍化と、航空機輸入の一巡で、横ばい。
自動車	1,129	▲3.2%	555	+7.8%	610	▲0.8%	1,165	+3.2%	1,188	+2.0%	上半期は、2014年の消費税増税による減少の反動で増加。4月以降エコカー減税の基準が厳しくなり、ディーゼル車の輸入が増加した他、高級車の販売車種拡大で堅調。下半期は、VW不正問題の影響で減少。	国内需要の減少で、輸入も伸び悩み。下半期は2017年4月からの消費税増税の駆け込みで増加。
航空機類	712	▲4.2%	383	+30.3%	336	▲19.7%	719	+0.9%	675	▲6.1%	航空機は受注・デリバリー計画に基づいた試算。通年で2014年度比横ばいを見込む。	LCC向け販売が2015年度でほぼ一巡し、減少。
IM 09 その他	10,812	+2.2%	5,638	+8.3%	5,816	+3.2%	11,453	+5.9%	11,830	+3.3%	雑製品(除く衣類及び同付属品):2014年4月の消費税率引き上げ前に膨らんだ反動による減少はほぼ下げ止まったが、下半期になると円安による金額押し上げ効果が徐々に縮小。時計等の精密機器類や魔法瓶が比較的好調。玩具や楽器類は比較的不振。 特殊取扱品:再輸入品の動向に大きな変化は見られないが、円安による金額押し上げ効果が徐々に縮小。	雑製品(除く衣類及び同付属品):消費財を中心に輸入数量が増加するが、円安による金額押し上げ効果はほぼなくなる。 特殊取扱品:2015年度並みを見込む。
衣類・同付属品	3,322	+0.1%	1,727	+6.4%	1,708	+0.5%	3,435	+3.4%	3,567	+3.9%	国内消費者による需要の落ち込みがインバウンド効果を相殺する中で、数量はおおむね横ばいにとどまるが、円安に伴う単価上昇により金額は増加。	円安による単価押し上げ効果は弱まるが、流行の波が小さい紳士服やフォーマル服などの一部品目で、消費税率再引き上げ前の駆け込み需要が生じることから数量は小幅増。その結果、金額ベースではほぼ2015年度並みの伸びに。
製品輸入	46,299	+4.9%	24,084	+9.1%	24,565	+1.4%	48,649	+5.1%	49,970	+2.7%	製品輸入比率62.5%(前年度比プラス7.2ポイント)。	製品輸入比率63.1%(前年度比プラス0.6ポイント)。

\*2015年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。